

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175300391		
法人名	社会医療法人 明生会		
事業所名	するーらいふ台町(2Fユニット)		
所在地	網走市台町2丁目7番4号		
自己評価作成日	令和4年11月1日	評価結果市町村受理日	令和4年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護との医療連携 ・受診、入院の医療連携 <ul style="list-style-type: none"> ・職員の気付きを基にしたアセスメント、ケアプラン ・運営推進会議の活用で、台町地区高齢者支援と協力体制の構築 ・網走市市民活動センターと協同し、ボランティア活動の受入れ実施 ・地域の学生に対して、福祉を学習・体験する場を提供 ・地域の学生に対して、福祉を学習・体験する場を提供 ・家族会と協力し、サービスの質を向上
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosvoCd=0175300391-00&Se
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和4年11月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・馴染みのある関係を築いてもらいたい思いで支援させていただいている。 ・理念をもとに目標に取り組んでいる。 ・普段は特に意識していないが、顔馴染みの職員による柔軟なサービスを提供できていると思う。 ・あまり意識できていない。 		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで行えていた町内参加型夏祭りや花いっぱい運動等コロナ禍においてできなくなった。 		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座の実施を例年行っていたがコロナ禍で行えていない。 		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍にあり参加者が集まって話し合う機会はもてていない。書類での開催にとどまっているが、GHとの繋がりは断たないよう努力はしている。 		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・運営、サービスの相談を密に行っている。運営会議のメンバーにもなっている。 		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを意識し振り返り防止に努めている。 ・外出の希望や不穏状態を察し、納得できるよう接している。 ・無断外出が頻繁な方がいて、時限的な玄関の施錠を行っている。 ・徘徊のある入居者には施設全体で見守るケアをしている。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン学習で高齢者虐待防止を学び、防止に努めている。 ・入浴時に全身チェックや不適切な言動に注意している。 ・不適切な言動についてホーム長から指摘もあり注意し防止に努めている。 ・感情的な言動によるグレイゾーンはあると感じている。感情に流されないよう注意している。 ・事業所内研修を全職員に実施し虐待ゼロに取り組んでいる。ロック委員会にて早期に是正もしている。 		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内研修に参加し、学ぶ機会がある。 ・地域包括センターとの連絡体制が構築されており相談体制を確率している。年一回、職員への権利擁護の研修会を開催している(今年はおんデマンド) 		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入居、退去時や契約内容の追加がある場合はその都度、説明し契約を結んでいる。 		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で交流は減ってきているが家族と会った時には様子を伝え意見を聞いたりしている。 ・家族の意見等、その都度リーダーに報告し、申し送りですタッフ間共有している。 ・普段の会話から利用者の要望は聞き取りしている。 		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員全体で話し合える機会は少ない。 ・ホーム長やリーダーを通じて意見や提案している。 ・ある程度、自由に意見が言える環境で協力は得られている。 		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人事考課を実施して年度末、面接評価を実施している。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・内部研修の機会を設けスキルアップに繋げている。 ・研修に行ける機会が少ないが本や通信で勉強や学習している。 ・職場内の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・コロナ禍で実施されていないが、今後あるなら参加してみたい。 ・交流はもっていない。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・初回面接時、カンファレンスを行い、生活歴や食事の好み、支援環境を伺い入居後の生活が安心できるよう多方面での支援を行っている。 ・不安にならないよう積極的に話しかけている。 ・観察と共感をしながら否定せず受け入れてもらえるようアプローチしている。 ・安心していい場所という認識をもってもらえるようアプローチしている。 ・安心できるよう困っていないかを確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族から話して頂けるよう接遇に留意している。 ・家族と話す機会が少ないが面会時や電話時に近況を伝えている。 ・家族の不安を身近に感じ共感しながら、ここでの生活を安全に快適に過ごせるようコミュニケーションしている。 ・認知症への理解、協力体制をえらるよう支援ポイントを伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・困ってる事がないか見つける努力をしている。 ・今までと違う環境の中で緊張がほぐれるよう支援しながら、何が糧ようなのかを把握し無理強いせず楽しめる事から始めている。 ・入居者、家族と話情報をもとに理解度を高めている。 ・どのように生活を送りたいのか認識し、可能性を引き出せるよう積極的に関わっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・人生の先輩として教えてもらう事も多々あり学びながら関わらせていただいている。 ・できる事を見つける努力をしている。 ・食事の盛り付けや掃除等役割として生活に組み入れている。 ・今までの経験や暮らしを聞き、一緒になにかできないかを見つける努力をしている。 ・思いのうちのなるべく言ってもらえるよう積極的に関り、困っている事等相談、聞くよう努めている。 		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・物品の購入や病院支援に協力してもらっている。 ・ホーム内に気軽に足を運んでもらいたいが、現在は困難な為、日頃の様子をできるだけ伝えている。 ・家族が疎遠にならないよう、配慮している。 		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において美容室は行きつけに行く事ができているが、他外部との接触は困難。 ・知人に書いた手紙を投稿したり、友人と話したい希望があれば電話対応している。 		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・トラブルのないよう配慮して見守っている。 ・共有スペースで顔や仕草が見える環境で過ごしている。他者を気遣う場面もあるが仲たがいもある為、気を配っている。 ・食堂やリビングでは話ができる同士で配慮している。 		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ程度で関係性は薄い。 ・一部の家族とは交流があった。 		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの思いや意向に沿った日常を送れるよう対応を心掛けている。意思疎通が難しい方は観察して判断している。 ・本人が安心できる言葉やキーワードをスタッフの共有理解となるよう努め、意向の確認をしている。 ・個別に居室や散歩中に話しやすい環境で細かな思いを聞きケアのヒントしている。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族からの情報を見たり聞いたりし参考にしている。 ・これまでの生活でできる事を維持を大切に積極的に声をかけ見守りしている。 ・事前に利用していたサービスや本人家族から情報を得ながら、環境に馴染めるように慣れたんでいる道具や家具等、身近な物は継続して使用している。 ・一人ひとりとできるだけ向き合い、得られた情報で日常生活が張のある物になるよう努めている。 		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりを良く観察する事や言動に注目している。記録にも残し共有している。 ・心身状態にいつもと違う様子があれば申し送り経過観察している。異変時には状況に応じた対応をしている。 ・カンファレンスやミーティング等申し送りで把握している。 ・記録で把握する事が多いが、職員間で話し合いもしている。 		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の有する能力や生活リハビリ、個別リハ等多角的に本人の意欲や能力を活かせる内容を計画に取り込んでいる。 ・日頃の気づきや発した言葉は記録している。 ・食事面ではむせこみや痰がらみ、眠気や咀嚼を観察し入浴時には血圧、皮膚トラブル等の様子を観察し記録に残している。 		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・対応でうまくいった事や気づいた事を記入しスタッフ間で共有している。 ・朝のミーティングや申し送り等で対策を話し合い計画の見直しをしている。 ・感情からくる表情の変化やレクに対する理解度や興味を観察し、笑顔が見られた事は取り入れるようにしている。 ・前向きなケアができるよう情報発信と伝達に努めている。 		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で外出が難しいなか、近隣の散歩等、接触を避けながら気晴らしができるように配慮している。 ・嗜好品や必要物品を家族に伝え、対応が難しければ代理購入している。 ・受診対応等、家族対応が困難な時には対応している。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での規制解除までは地域資源の利用は難しい。 ・町内の公園程度。 ・定期的な訪問診療、訪問歯科等。 		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な訪問診療を活用している。対応ができない場合、専門科に受診している。 ・訪問診療の活用で本人も家族も安定した医療を受けられる事に安心している。 ・希望の受診先があれば適切な医療が受けられるよう支援している。 		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・細かな事での相談、アドバイスをしてもらっている。 ・訪問看護と密に連携し、専門的な視点から助言、指導を受けている。 ・定期的な訪問看護を受け、医師への報告、相談ができるようになっている。 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・役職者やケアマネジャーが中心となり、情報のやり取りを行っている。 ・情報にもとづいた対応を心掛けている。 		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・本人からの終末期の意向は困難な為、家族に本人ならどう考えるかをもとに意向確認書を描いていただいている。必要時には定期的に医師を交え、家族と意向の確認も行っている。 ・理解に努め取り組んでいる。 ・家族、訪問診療、訪問看護と連携をとり、その人にあつた迎え方の取り組みをしている。 		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・救急救命講習を受講。 ・急変や事故発生時に備えてスタッフ間でも声を掛け合っている。 ・定期的な受講機会があり、実践できるよう努めている。 		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時のBCP作成に取り組んでいる。年二回火災における避難訓練を実施し、運営推進会議を通じて町内会へ報告し協力体制を築いている。 ・火災における避難訓練を行っている。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者によって馴れ馴れしい言葉が親しみを感じてくれると思ひ、誤解を招く事もあると思う。 ・冗談を交えての会話は丁寧ではないが、リラックスした様子が伺える為、対応の工夫として大事にしている。トイレ等のプライバシーな部分は声を小さくして配慮している。 ・意思表示が難しい方に対しても動作や声掛けのペースを合わせるなど、言動、仕草を観察し対応している。 ・身近に感じてもらうようちゃんづけで呼ぶこともあるがプライバシーや尊厳を大切にしたいと思う。 ・行動を無理に止めずに寄り添いながら話を聞いたり関わっている。 		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい言葉で個人の意思を手助けをしている。 ・意識はしているものの実際の場面で積極的な支援になっていない事が多い。うまく関わりたい。 ・日頃のコミュニケーションの中で望んでいる事の把握をし実現可能なら取り入れたり、他のスタッフと共有している。 ・多くの中から選択する事が難しい為、2~3択用意し選んでもらっている。 ・さりげなく自己決定できるように促している。 ・意志を尊重し傾聴し見守りながら導く方向に働きかけている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・思い思いの過ごし方を大切にしつつ活動できるよう支援している。 ・毎日のペースを乱すことなく希望を伺いながら支援している。 ・決まりや都合を優先してしまう事もあるができるだけ自分のペースで過ごせるよう心掛けている。 ・起床や食事等は施設の時間になっていると思うが本人からの拒否はなくそのリズムで馴染まれている。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・着衣が汚れている場合は、速やかに着替えを促している。 ・衣服を選んでもらったり、自分で選べない方は良い組み合わせを考え、きれいに過ごせるよう配慮している。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・その人の処理に合わせて片付け、盛り付け、調理の下処理等手伝ってもらっている。 ・できる範囲で一緒に行っている。 ・調理の補助を一緒に行っている。味付けは自信がないといいつつ、会話が弾む。 		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・献立づくりの時点で栄養バランスを考えて作っている。 ・決まった時間に食べられない時には、気の進んだ時に食べて貰えるよう別の物を用意したり配慮している。 ・水分摂取が苦手な人には好きな飲み物を用意し促している。 ・好みの物を個別で用意したり、品目や野菜、タンパク質を意識して食材を選んでいる。 ・食事は一日の楽しみの一つなのでおいしく食べてもらえるよう料理の工夫や楽しい雰囲気心掛けています。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の能力に合わせて毎食実施する人もいます。 ・拒否がありできない時もある。口腔トラブルは訪問歯科に相談し対応している。 ・拒否が強い方はうがいや柔らかい歯ブラシを使って工夫している。 		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄パターンを把握し本人の仕草を観察し態度、声掛けをしている。日中と夜間で使用するオムツ対応を使い分け、本人の負担を小さくなるよう配慮している。 ・定期的な誘導で排泄の失敗は減少している。 ・トイレサインがあればさりげなくトイレへ誘導している。 		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・薬に頼る事が多いが階段を往復したり体を動かす事を促している。 ・ヤクルトや乳酸飲料をとり入れている。 ・運動不足もあり下剤調整に頼る事が多い。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・最低回数週2回はできている。 ・拒否があり気が進まない時には時間を変更したり、シャワー浴だけでもしてもらえるよう配慮している。 ・曜日固定にこだわらず柔軟に対応している。 ・基本的なタイミングは施設で決めているが時間帯の制約はあるが希望に柔軟に対応している。 		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生活習慣を考慮しつつ安心して休めるよう支援している。 ・本人の体調や習慣に合わせて日中でも臥床促している。 ・寝付けない方への睡眠を促す声掛けや促進作用とリラックス効果のあるホットミルク等工夫している。 ・様子を見ながら居室誘導したり、掛物調整をしている。 ・居室で寝たがらない方はソファで休めるよう配慮している。 ・夜に安眠できるよう日中の活動量を意識し支援している。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・内服支援はしているが詳細を把握しきれてはいない。薬表で確認している。 ・内服薬の変更時は変更日、薬効、副作用に留意し早期発見に努めている。 ・病状の変化や気になることがあれば訪問看護に相談している。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアプランに沿ったケアを意識し、また新しい気づきで本人が前向きになっている事柄は記録し情報共有している。 ・できる事を把握し手伝ってもらったり、レクリエーションを実施している。 ・気分転換に散歩や能力に合わせた役割のお手伝いをして頂いている。 ・月に一度はいつもと違うメニューで楽しんでもらう工夫をしている。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における外出制限の中、限られた行動範囲で外出している。 ・希望があってもマンパワー不足で応じられない時間帯もあるが本人に説明し了承を得て可能な限り対応している。コロナ禍で家族、地域の協力は得にくい状況が続いている。 ・企画内でドライブに出かけ、気分転換を図っている。 		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤクルト訪問時にスタッフと一緒に買いに行っている。 ・お金を自己管理されている人はいないが、お財布に小銭を入れる事で安心される方もいる。 ・現状、お金を使う機会や支援は少ない。 ・コロナ禍で外で買い物する機会がない。 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら直接家族にできる方はいないが、希望で家族に電話を繋げたり、手紙やはがきを頼まれ投稿する支援をしている。 ・能力、希望に応じ対応しているが希望が無い方にも工夫したい。 		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングや食堂には季節に合った飾り付けをしている。 ・せわしく入居者の周りをバタバタと動き回らないよう気をつけている。 ・トイレ等清潔に保つよう心掛けている。 ・リビングで本を読んだり編み物をされる方がいるので明るさには配慮している。動きの少ない方には寒く感じる方もいるのでひざ掛け等温度面も配慮している。 ・忙しい時でもできるだけ個々に話しかけるよう心掛けている。 ・落ち着いた雰囲気での関り、声のトーン、アイコンタクト等安心の環境とを感じるよう努めている。 		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・大勢いるリビングに行くのを戸惑う方には、廊下のソファや台所で他者と距離を取りながら過ごしてもらっている。 ・トラブルにならないよう過ごす場所や気の合う関係に配慮している。 ・様々な場所に椅子等を設置し安息の場所として配慮している。 ・持ち物は本人の、家族の意向に応じているが配置などは安全性も考慮して決めている。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人にとって必要な物は家族に相談しながら揃えていただいている。 ・使い慣れた物や好みの物を置いて本人が居心地がよく感じるよう配慮している。 ・安全な配置を考慮した中で自分なりの空間や居心地の良さを感じていると思う。 ・アルバムや使い慣れた物は初期支援で持参して頂いている。 			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行時ふらつきがある方で廊下に手すりがあればと話される事がある。 ・屋内の移動の安全の為、椅子を配置したり配慮している。 ・自室の標識はしていないが、トイレやお風呂は目印になるものがある。 ・通路にはできるだけ邪魔になる物は置かないようにしている。 			